

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口道成
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	定形衛
整理番号	F05	プログラムコーディネーター名	松浦好治
プログラム名	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

基本コンセプト：「アジアを理解し、日本が説明でき、多様な文化的背景をもったリーダーたちと協力して組織を作り、社会運営の基礎になる法制度・社会制度を設計し、制度移植を「施工管理」し、制度を機能させることができる人材」を育成すること。

日本は1990年代以降、アジア諸国を中心に法改革・社会改革支援を積極的に行ってきた。その背景には、日本の社会運営能力に対する高い国際的評価（とくにアジアの漢字文化圏）がある。日本のリーダーは、今後ますますアジアの中で存在感を高め、国際的な貢献をすることを期待されている。

日本の法・政治学系の人材は、問題分析・整理、組織統括、社会運営、紛争処理の面で能力を発揮してきた。本プログラムは、この種の能力を日本/外国という仕切りにとわれることなく世界を自由に往来して発揮できる人材を「制度の国際移転というユニークな現場」（法整備支援プロジェクトなど）を本格活用して育成しようとするものである。

社会改革や法改革は、法典や制定法を作るだけで実現できるわけではない。各社会の仕組、政治、歴史文化、宗教、担い手となる人材の動員などに関する総合的な理解と深い洞察があつて初めて、有効な社会改革や法改革を構想し、実現することができる。アジアに貢献できるリーダーは、アジアを多角的に理解できる能力を持たなければならない。しかも、そのリーダーは、日本をきちんと説明できる能力を持たなければならない。なぜなら、法整備支援の現場では、つねに相手国のリーダーや関係者に対して「なぜ、日本では、こうしているのか」をコンパクトに説明しなければならないからである。

アジアを知り、日本を知ることは、一人ではできない。改革支援も一個人の作業ではない。日本の経験と知恵をアジアのために活用できるリーダーには、多様な文化的背景をもったリーダーたちと組織を作り、複数の外国語を通して、円滑なコミュニケーションをして、優れた提案を限られた時間でまとめ、組織を導くアイデアを提供できる能力が求められる。

本プログラムは、日本人学生と留学生が長期的に協働する実践的な教育研究の現場を構築し、制度の国際的移転に貢献できるリーダー群を国際的な研究・教育協力で、育成しようとするものである。

2. プログラムの進捗状況

第一期生5名（日本2，ポーランド1，フランス1，ウズベキスタン1）を受け入れ、2012（平成24）年10月から博士前期課程の教育を開始した。受け入れた学生の英語力は、TOEFL iBT 100を超えており、英語による教育に十分適応できる状態である。プロジェクト・マネジメント他の必修科目を中心とした教育、海外からの専門家による短期集中講義なども多様に提供している。

特任教員を7名（日本1，フランス1，アメリカ2，カナダ1，イタリア1，オーストラリア1）を採用し、質の高いacademic writing支援環境と比較法・比較政治の教育研究環境を整備した。

第二期の募集を開始し、すでに3名の合格者（日本1，台湾1，バングラデッシュ1）を決定し、さらに応募者の選考作業を継続している。今年度も英語力は、第一期と同程度であるので、教育研究の内容に重点を置いた環境整備に集中している。

法学研究科の提供する別のプログラムに在籍する留学生およそ150名の教育研究と有機的な連環を持った教育を進める準備を行なっている。